

1.この題材でつきたい力（題材の目標）

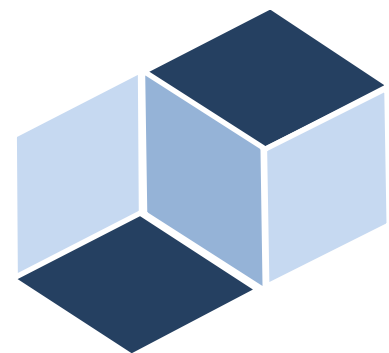
- ・立方体を基本に平面上に立体的に見えるように構成、色の性質や特性を生かした作品を考えさせ、**技法**を理解し駆使して効率よく制作させる。
- ・アクリル絵の具とマスキングテープを使った着色という、単純な作業を通して、それぞれの場面や状況に応じて対処し、次の作業が効率よく、進められるように考えさせる。

2.材料・用具

- ・三角眼シート(レイアウトシート)、アクリル絵具、マスキングテープ、プラスチックコンテナ、デザイン筆、定規、カッター、色鉛筆、配色カード

3.指導計画（全22時間）

①課題条件の説明、参考作品の鑑賞	}	4時間
②プランニングペーパー制作		
③B3方眼シートに下描き	…	2時間
④※技法の説明・注意	}	12時間
⑤本塗り作業		
⑥修正	…	2時間
⑦チェック修正・完成・提出・鑑賞	…	2時間



※技法…俗称『へコロ』について。

◎マスキングテープで、方眼に沿って、毎回きっちりと四方をマスクして着色すると、隣り合った色面との間に不測的に髪の毛程の幅の余白ができてしまう。その修正ために時間が余計にかかってしまって、授業内での完成が危うくなり、途中で心折れてしまう生徒が見受けられるので、わざと中途半端なマスクをして絵の具を計画的にはみ出させ、はみ出した部分に上塗りさせることで不測的な余白が生じるのを防ぐことができる。

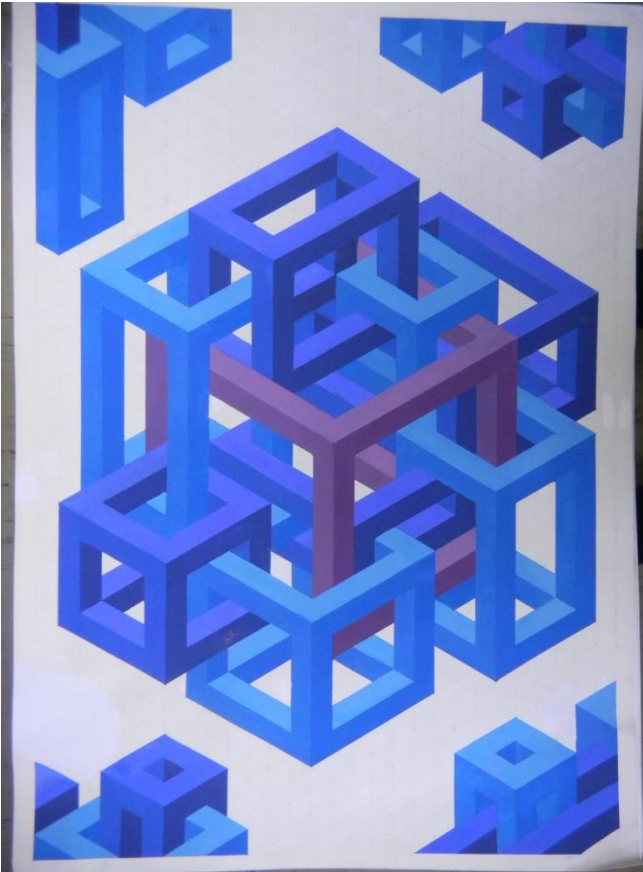
※手順…基本形を斜め上から見た立方体と想定して三面を下記順序で着色する。

- へ…(1) 方眼の三面立方体の一面の二辺だけにマスクをし、一番明るい彩度がある純色に近い色を、他の二面にはみ出るように塗る。
- こ…(2) (1)の面と接する辺を含む、三辺にマスクをし、次に、明るい彩度がある色を、残りの一面にはみ出して塗る。
- ろ…(3) (1)(2)の接する辺を含む、四辺にマスクをし、一番暗くにぶい色を塗る。

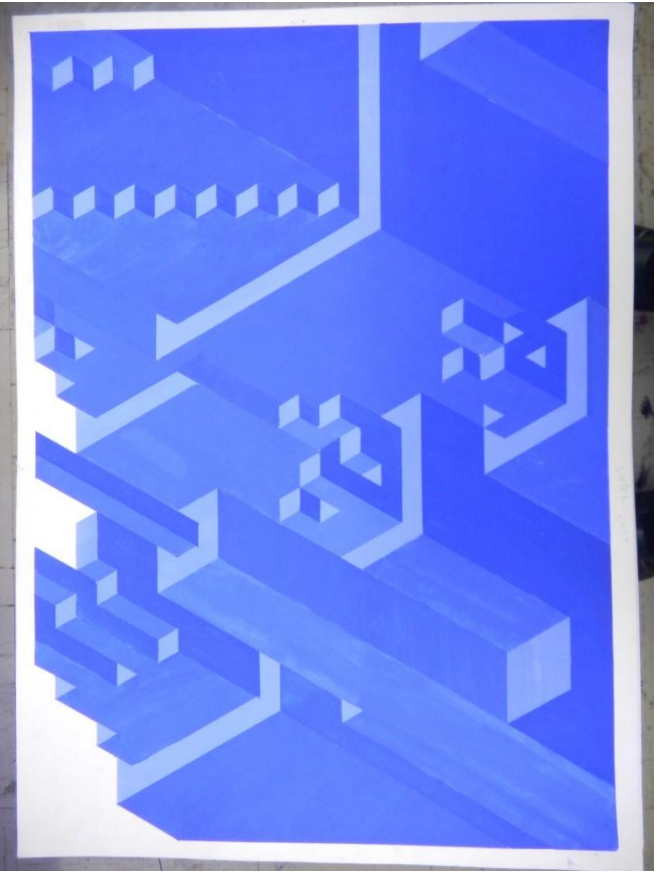
4.観点別評価

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
<p>「関」 課題条件と参考作品を鑑み、作品の本質を理解しようとしていた。</p> <p>「意」 制作上のポイントを押さえて実習に臨んでいた。</p>	<p>「発」 課題条件に則した作品であった。</p> <p>「構」 全ての条件を踏まえたプランニングができていた。</p>	<p>「創」 構造、色彩とも独自性が感じられた。</p> <p>「表」 技法や道具の特性を効率の良い手順を理解しトータルに創意工夫し制作していた。</p>	<p>「鑑」 作者のねらいや制作の意図、表現の工夫を客観的に感じ取り、作品の長所や短所を理解していた。</p>

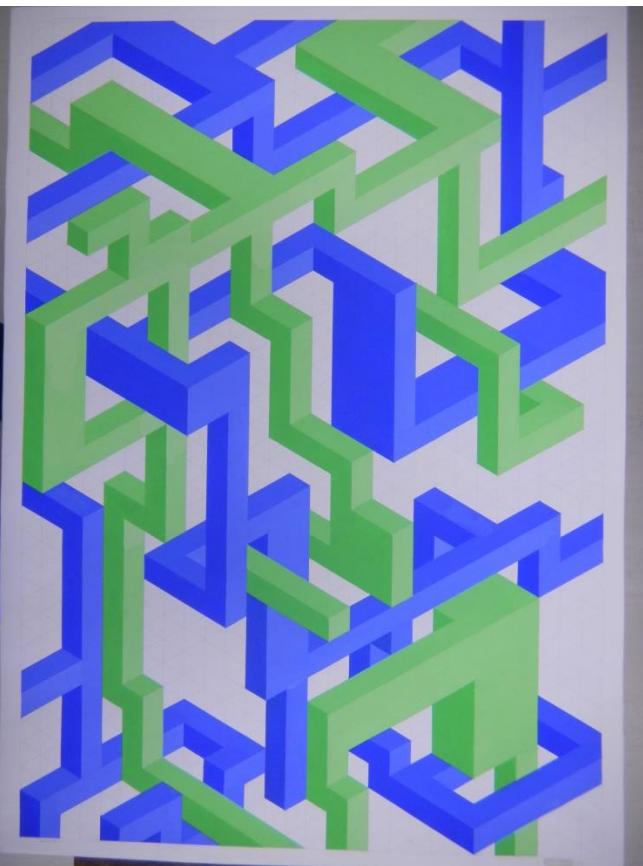
5. 基本的な構成デザイン



『集合構成』



『積重構成』



『迷路構成』



『拡散構成』